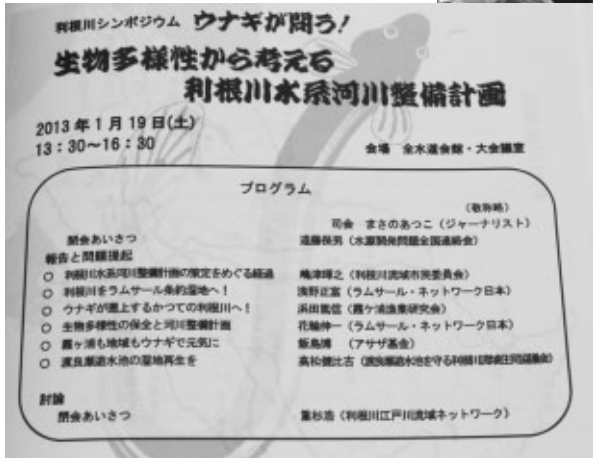


利根川シンポジウム **うなぎが問う！**
**「生物多様性から考える
 利根川水系河川整備計画」**

2013. 1. 19



主催 利根川流域市民委員会
 ラムサール・ネットワーク日本、
 水源連



さんからは、生物多様性の保全の観点からラムサール条約には河川管理に関するガイドラインがある。それにのっとった河川整備計画の策定を行うべきだと、ガイドラインの説明がありました。



1月19日東京の全水道会館で生物多様性の観点から利根川整備計画のあり方を考えるシンポジウムが行われました。

利根川流域市民委員会の**嶋津暉之**さんは利根川水系河川整備計画の策定をめぐる経過を報告し、水余りの時代において過去の開発で失われた利根川の自然を取戻す整備計画の策定を訴えました。



アサザ基金の**飯島博**さんからは、霞ヶ浦の現状で逆水門の柔軟な運用を行えば、生態系や水質の改善に大きな効果があることが説明され、ウナギ復活に向けた社会ネットワークを進め、教育・市民活動・食の分野も含めて新しい市民型公共事業の創出を目指して行こうという提起がありました。



ラムサール・ネットワーク日本の**浅野正富**さんからは、河川整備計画に生態系保全をきちんと位置づけ、利根川水系全体をラムサール条約に登録することを目指そうという提起がされました。



渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の**高松健比古**さんからは、シギやチドリのある浅瀬のあるエコミュージアムプランを目指して活動し、昨年ラムサール登録湿地にすることが出来た。登録によって、「開発」という名の自然破壊が出来なくなった意義がとても大きいと報告がありました。

霞ヶ浦漁業研究会の**浜田篤信**さんからは、利根川のウナギの減少はダム増加に反比例し、ダム1基ごとに漁獲高が15%減っていると推定される。生物多様性損傷の原因は乱獲や温暖化等ではなく公共事業によるものだとデータに基づく厳しい指摘がなされました。



利根川・江戸川有識者会議の委員で奮闘されている**大熊孝**新潟大学名誉教授は、「恣意的でデタラメな有識者会議のあり方を糾して行く」「利根川水系全体をラムサール条約登録湿地にすることが出来るようなものとするを有識者会議で提起していく」と発言、会場から大きな拍手が沸き上がりました。

ラムサール・ネットワーク日本の**花輪伸一**